

洪水ハザードマップ説明資料

～ 命が助かるための避難行動を ～

関ヶ原町洪水ハザードマップ作成の目的

近年、これまで私たちが経験してきたものをはるかに上回る風水害による災害が多く発生しています。

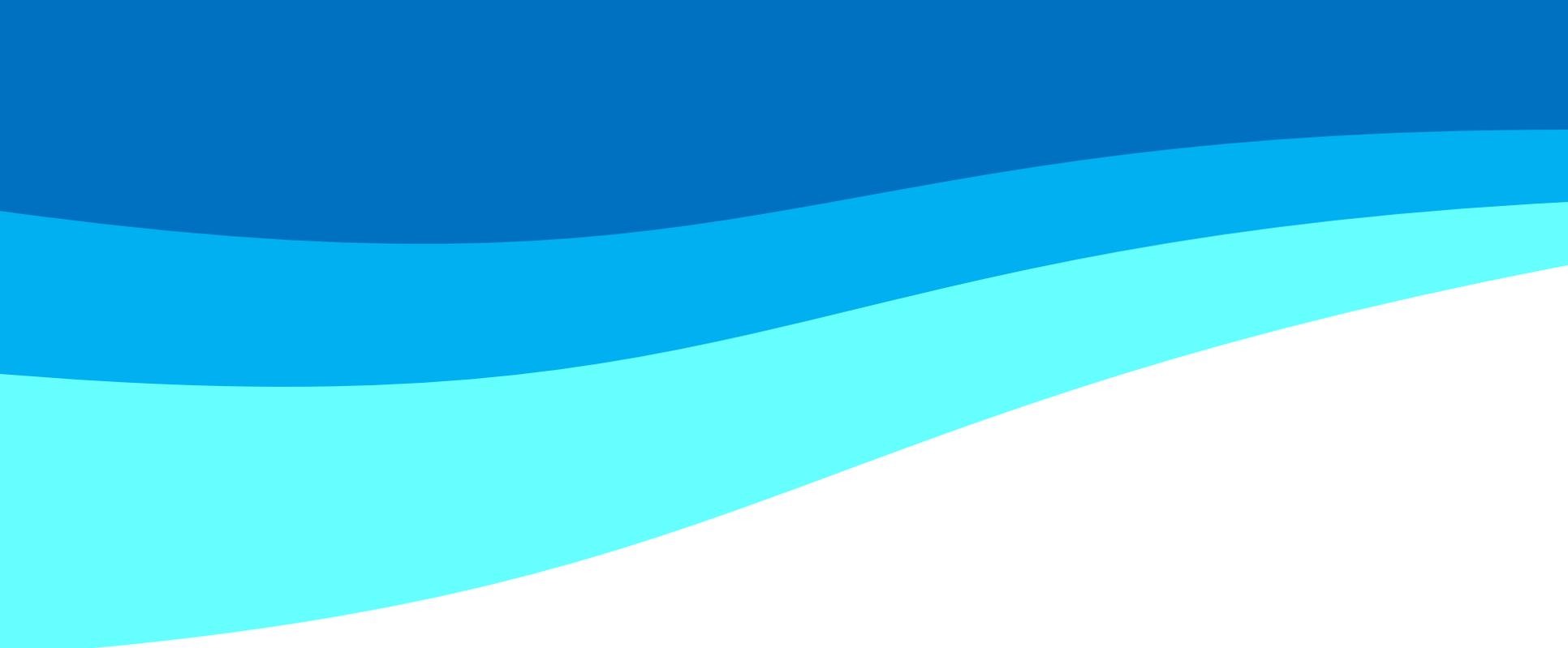
被害を最小限とするためには、日頃から住民の方が「自らの命は自ら守る」意識を持って自然災害について学び、いざという時には、自ら適切な避難行動ができるよう「備える」ことが必要です。

風水害の危険が生じた時、

- ①どの情報・状態で避難行動をするのか
- ②どこへ・どのような経路で避難するのか
- ③避難先へ何を持っていくのか 等について

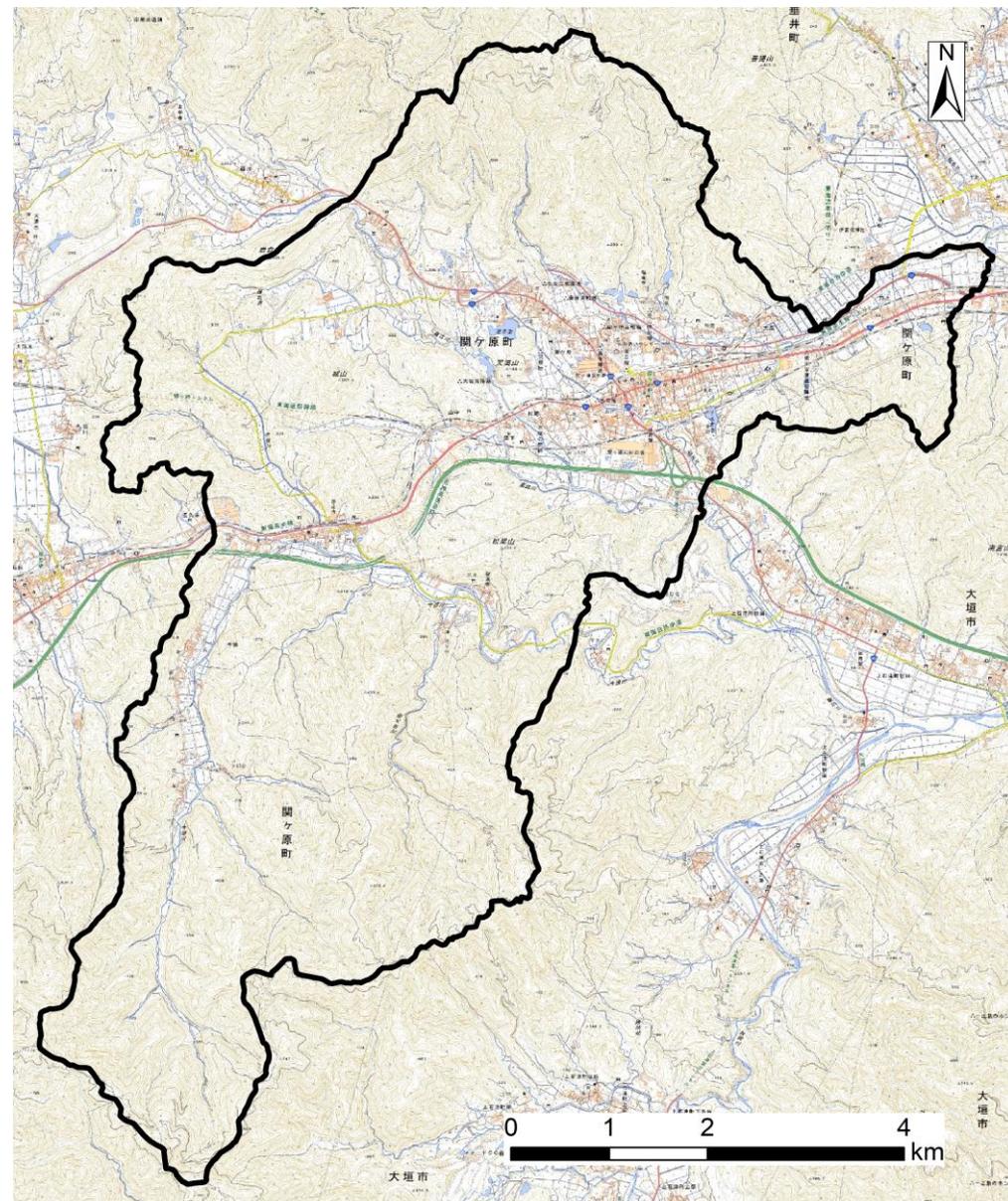
避難訓練等を通じて平時からご家族や地域の皆様で考えて頂き、自らの判断で避難行動をして頂くために関ヶ原町洪水ハザードマップを作成しました。





地区別地形の特性、過去の災害 履歴、危険箇所、避難経路

関ヶ原町の地形特性



関ヶ原町は南北の山地に挟まれた凹状地形で、台地と谷底平野に道路や集落が集積しています。

これまでに関ヶ原町は、洪水によって大きな被害を受けた経験がないため、浸水想定区域に疑問を持つ方もいらっしゃると思います。しかし、近年発生した平成30年7月豪雨災害（西日本豪雨災害）や、令和元年東日本台風では、予測された浸水想定区域とほぼ同じ範囲で浸水が発生しています。

関ヶ原町は、県が管理する一級河川「相川、藤古川、今須川、大栗毛川」の最上流部に位置するため、山地部で大雨が降ると、短時間で近隣河川の水位が上昇することに注意が必要です。

なお、避難経路に関しては、町が独自に決められないため、昼夜の通行に危険を伴う道路などを避けて避難できる経路を皆様でお考え下さい。

洪水ハザードマップの記載事項

関ヶ原町洪水ハザードマップ（学習・情報編）の内容と構成

関ヶ原町洪水ハザードマップ（学習・情報編）には、地図編の利用方法、災害時における避難情報の内容や伝達経路などを掲載しています。紙面の構成は、上段（青色項目）に基礎知識、下段（オレンジ色項目）に災害時の行動に必要な内容と心得としました。



- ① 豪雨時にとるべき避難行動
（滞在場所による避難の考え方）
- ② 土砂災害の基礎知識
- ③ 避難時の服装や非常持出品
- ④ 災害時の行動と安否確認
（マイタイムライン、災害時の連絡方法）
- ⑤ 災害情報等の伝達・収集
- ⑥ 防災気象情報等の活用
（キキクルの活用、関ヶ原町防災アプリ）
- ⑦ 災害時の心得
（避難時の注意点など）

関ヶ原町洪水ハザードマップ
（学習・情報編）

洪水ハザードマップの見方、使い方

浸水想定区域図（水害危険情報図）について①

関ヶ原町洪水ハザードマップ（地図編）の洪水浸水想定区域は、岐阜県により平成31年3月に作成されたものです。この浸水想定区域は、概ね、以下の流れで作成されています。

① 想定河川における
流域、河道データ作成

② 対象流域における
過去の降雨データ整理

③ ②の降雨データの
確率処理

④ ③の降雨データを
確率規模別の流量に変換

⑤ 破堤（越流）が想定される地点（川幅変化点、
合流点、蛇行区間等）を複数設定

⑥ 想定する確率規模の河川流量で
河道内の水位を計算

⑦ ⑤で想定した破堤箇所から越流する
流量を計算し、氾濫範囲を合成

浸水想定区域図（水害危険情報図）について②-1

浸水想定区域図が作成されるイメージを模式的に図示すると以下のようになります。

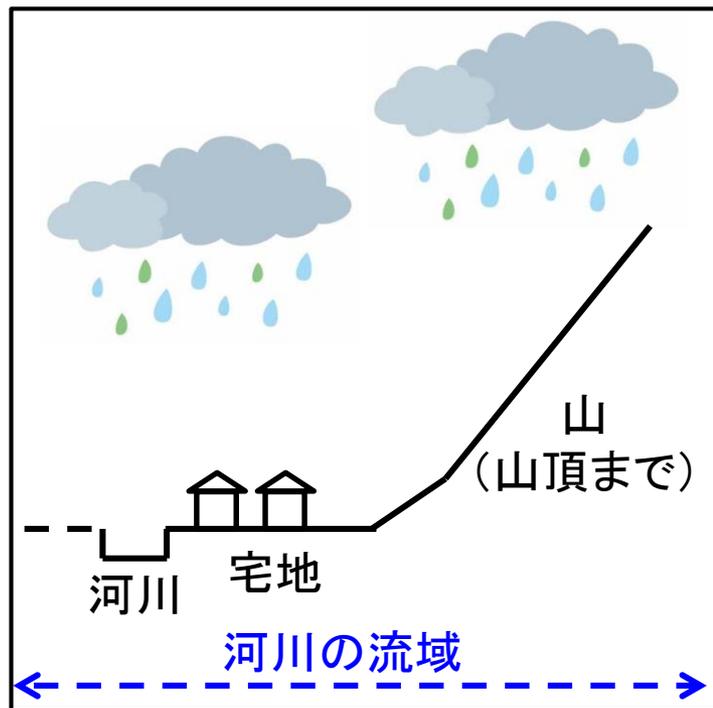
①山地（流域）に大雨が降る

②雨が河川に流出する

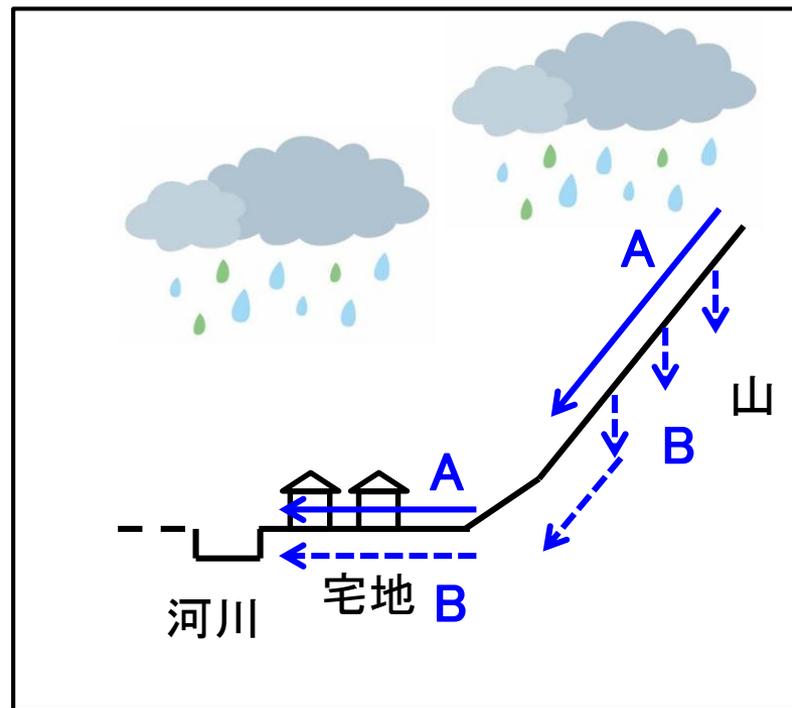
雨は、2通りで河川に流出します。

A：地表面を流下して直接河川に流出するもの

B：地中に浸透して河川に流出するもの



流域における降雨
イメージ図

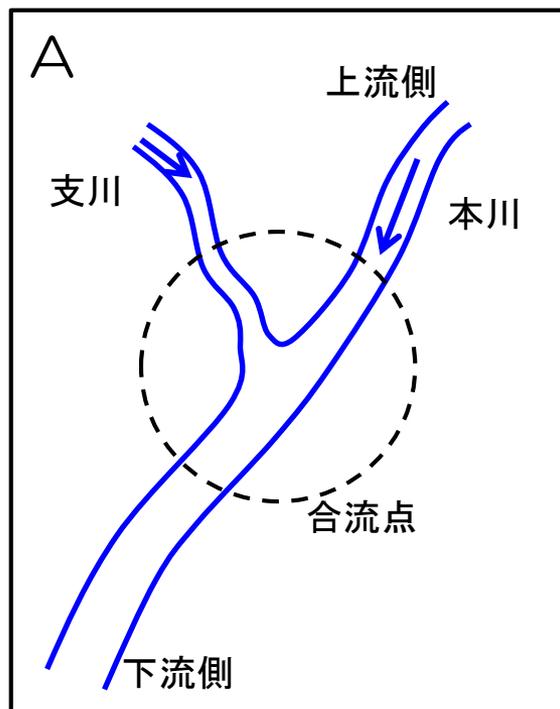


降雨が河川に流出する
イメージ

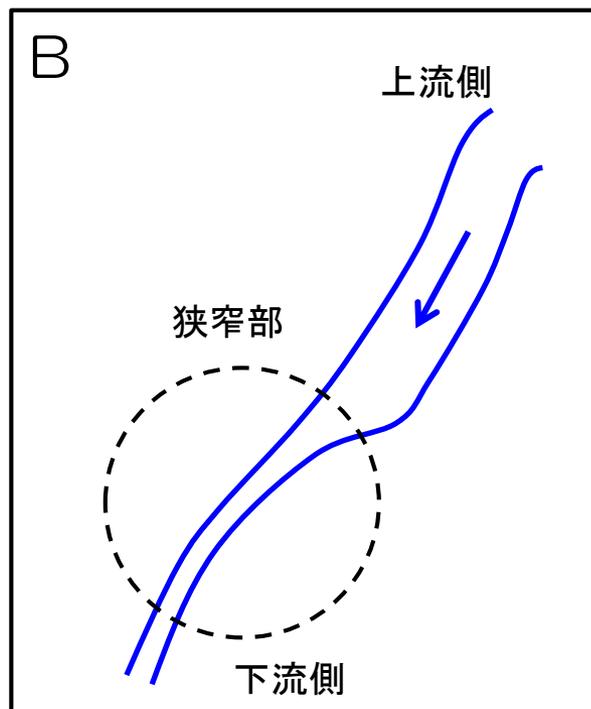
浸水想定区域図（水害危険情報図）について②-2

③破堤（越流）地点を設定する

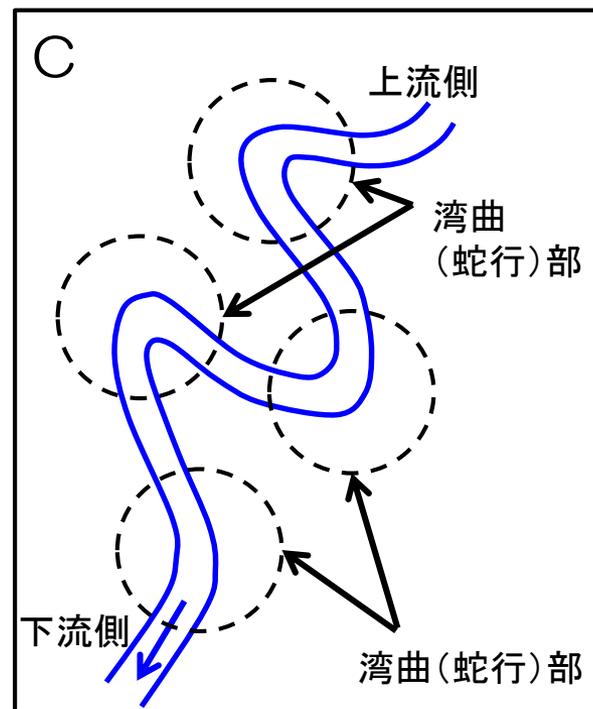
河道形状から、水位上昇が起こりやすくなる箇所の河川距離標を把握します。水位が上昇しやすい箇所は、A.流量が増加する合流点、B.川幅が狭くなる狭窄部、C.土砂が溜まりやすくなる湾曲（蛇行）部などです。



合流点のイメージ図



狭窄部のイメージ図

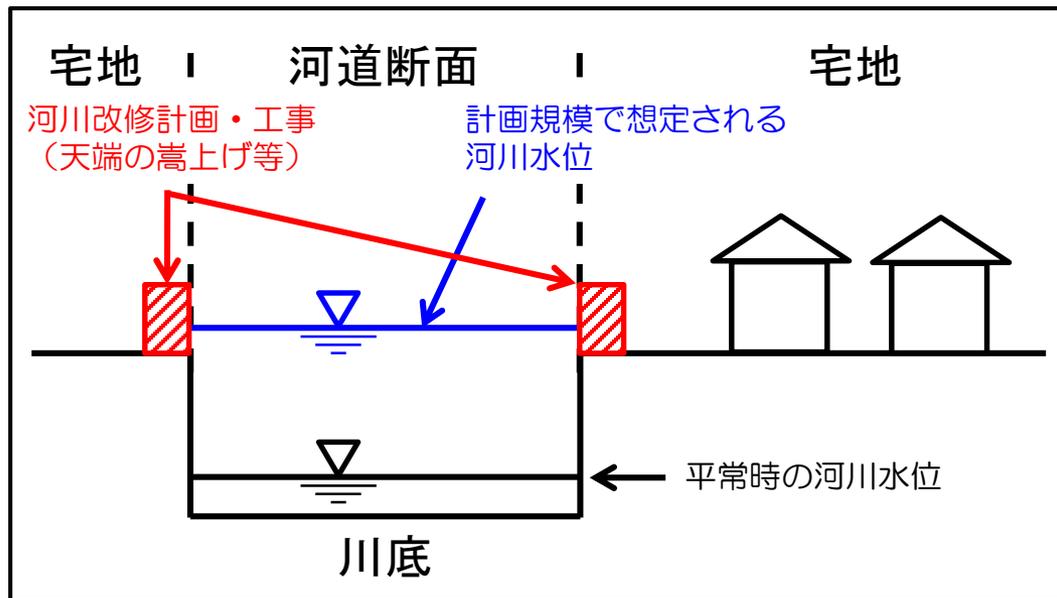


蛇行部のイメージ図

浸水想定区域図（水害危険情報図）について②-3

④川の水位が上昇する

降雨の規模が大きい場合、水位が河川の本流を越える（越流する）場合があります。各河川には、堤内地への氾濫に対して「どの程度の降雨規模まで防ぐ目標とするか」を事業費をふまえて設定されており、護岸工事等の河川改修が実施されています。この降雨規模を「計画規模（L1）」といいます。



河川水位のイメージ図

各河川の計画規模

河川名	計画規模(L1)
相川	1/50
今須川	1/30
藤古川	1/30
大栗毛川	1/20

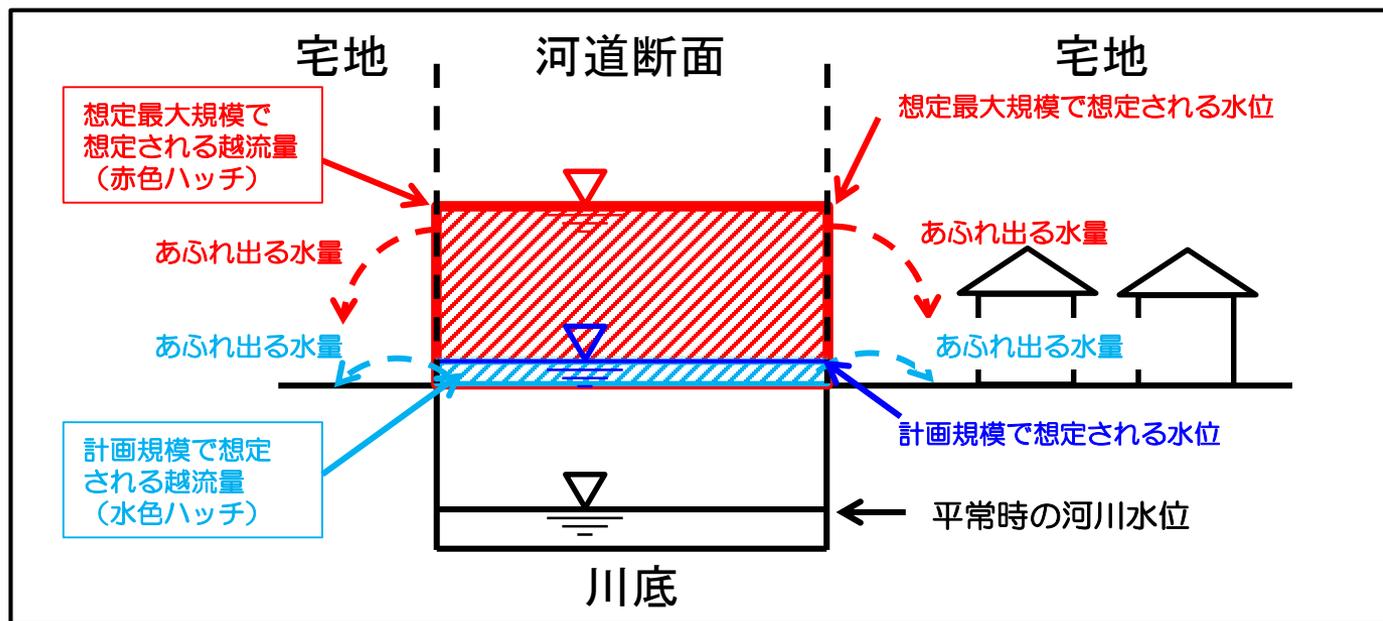
※相川の場合、50年に一度発生する降雨に対して治水安全度を確保できるように計画規模が設定されています。

浸水想定区域図（水害危険情報図）について②-4

⑤河川からの越流量

降雨の確率規模は、対象河川の流域内で観測された雨量データを整理し、確率処理により算出されています。県が公表する浸水想定区域図では、①計画規模、②想定最大規模に相当する降雨から、それぞれ流量が計算されています。

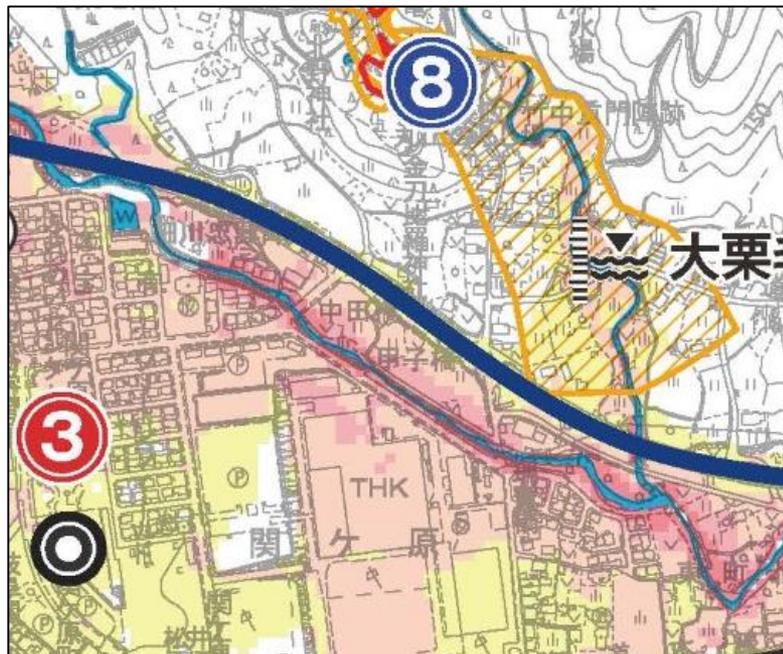
河川から越流する流量は、①、②に相当する規模の流量が現在の河道を流下した場合の水位を河川距離標毎に算出し、現在の天端の上方の水位分に相当する流量が越流する前提で氾濫区域が想定されています。



想定最大規模と計画規模で想定される
河川水位と越流量のイメージ図

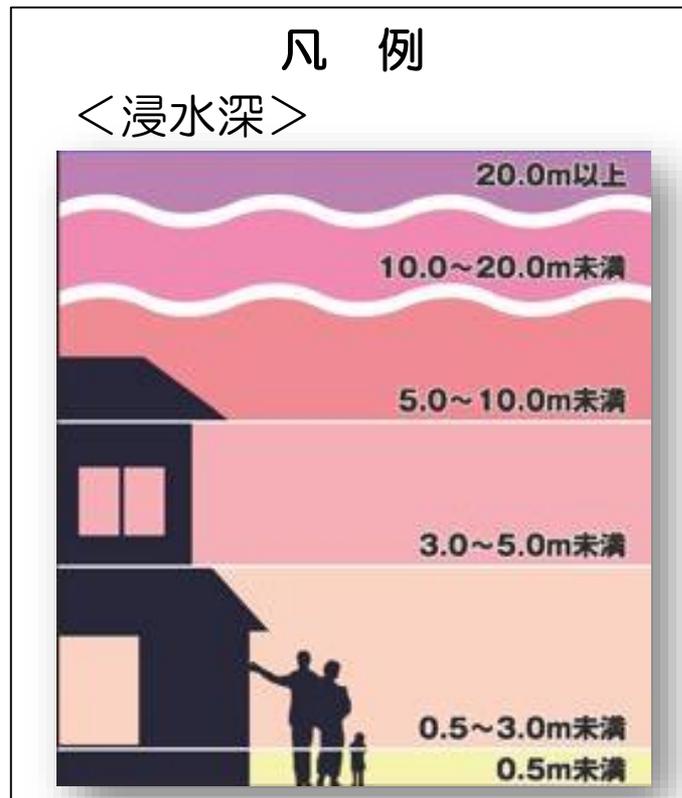
豪雨時にとるべき避難行動①（ハザード情報の確認方法）

自分の家で想定される浸水深を確認しましょう。大人の場合、水深50cm程度で歩行困難となります（子供の場合は30cm程度です）。土砂災害警戒区域にかかっている場合も避難が必要です。



凡例

- 土砂災害特別警戒区域 ▨ 土砂災害警戒区域
- ① 指定避難所 ⑧ 指定緊急避難場所 ① 要配慮者利用施設
- 🚏 避難時要注意箇所(アンダーパス、地下道など)
- 📏 危機管理型水位計 ☁️ 雨量計 〰️ 河川
- 国道 〰️ 鉄道(JR) 〰️ 新幹線 - - - 行政界



豪雨時にとるべき避難行動②（避難行動の考え方）

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

はい →

いいえ →

ハザードマップ※で自分の家や職場がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

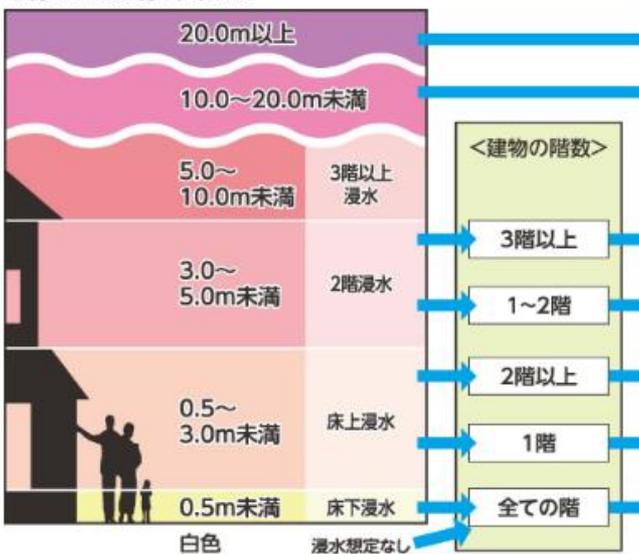
建物にオレンジ囲みのハッチング（土砂災害警戒区域）がかかっていますか？

建物が土砂災害で倒壊するおそれあり

<避難行動の指針>

町が避難所を開設したら、避難所または安全な親戚・知人家へ避難

浸水の色と建物の階数は？



<建物の階数>

3階以上

1~2階

2階以上

1階

全ての階

浸水後も滞在可能（垂直避難）

町が避難所を開設したら、避難所または安全な親戚・知人家へ避難

浸水後も滞在可能（垂直避難）

町が避難所を開設したら、避難所または安全な親戚・知人家へ避難

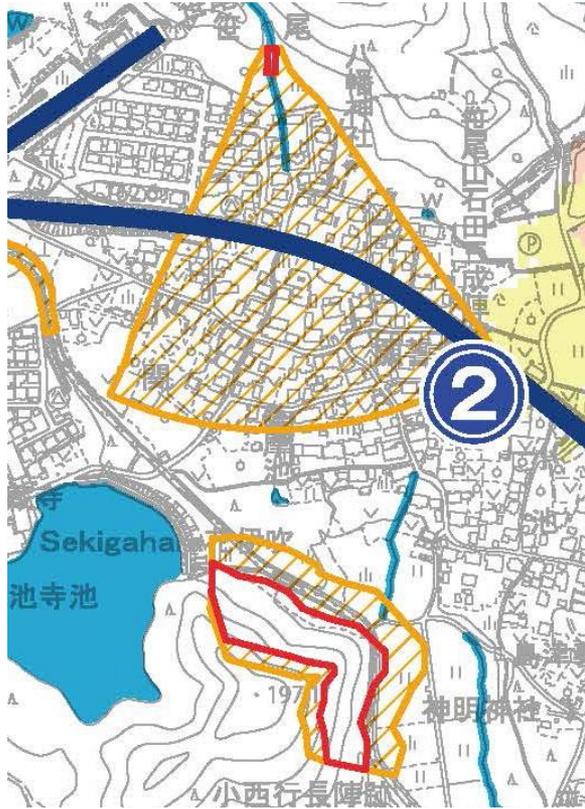
浸水後も滞在可能

自分の家で想定される浸水深を確認したら、避難行動判定フローから避難行動の指針を確認しましょう。

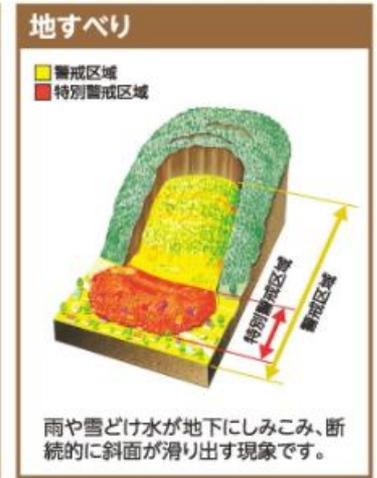
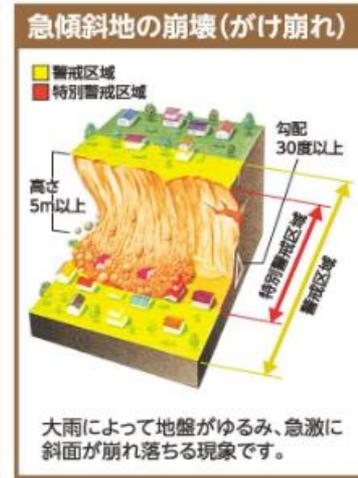
ご自宅の建物階数によって避難行動の考え方が異なります。

気象情報などの情報から、いつ避難を始めればよいのかは「災害情報等の伝達・収集、防災気象情報等の活用」をご確認ください。

土砂災害を知らう①(土砂災害の種類)



豪雨や長雨で地盤がゆるむと土砂が移動（流出）し、土砂災害を引き起こします。土砂災害の種類には「土石流、急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）、地すべり」があり、それぞれ特徴が異なります。



関ヶ原町では、令和4年3月31日時点で以下の土砂災害警戒区域、同特別警戒区域が指定されています。

凡例

- 土砂災害特別警戒区域 □ 土砂災害警戒区域
- ① 指定避難所 ① 指定緊急避難場所 ① 要配慮者利用施設
- 🚶 避難時要注意箇所(アンダーパス、地下道など)
- 📏 危機管理型水位計 ☁️ 雨量計 〳 河川
- 国道 — 鉄道(JR) — 新幹線 - - - 行政界

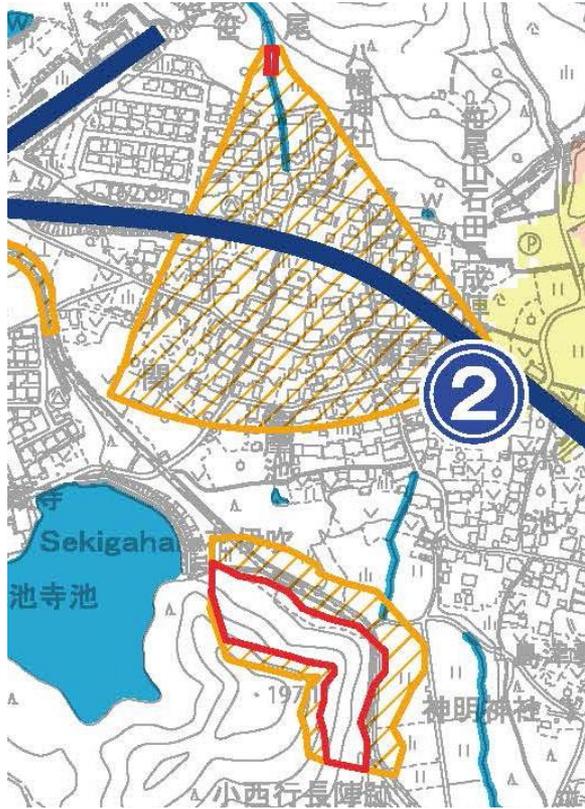
<急傾斜地の崩壊>

土砂災害警戒区域 : 73箇所
土砂災害特別警戒区域 : 90箇所

<土石流>

土砂災害警戒区域 : 49箇所
土砂災害特別警戒区域 : 40箇所

土砂災害を知ろう②（土砂災害の前兆現象）



土砂災害が起こる前には、多くの場合何らかの前兆現象があります。

土砂災害警戒区域等によらず、前兆現象に気づいたら周囲の人にも知らせ、いち早く安全な場所に避難してください。

土砂災害の主な前兆現象 （土石流、がけ崩れ）

凡例

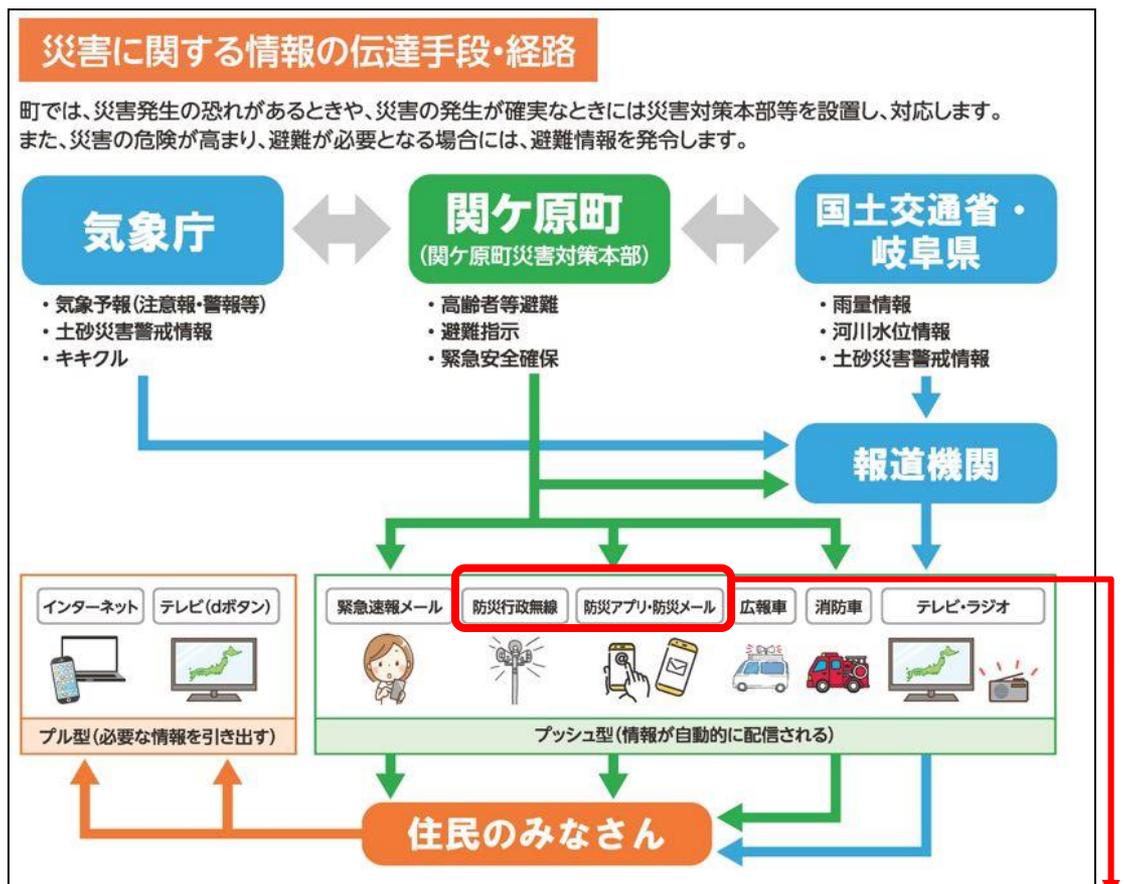
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 指定避難所
- 指定緊急避難場所
- 要配慮者利用施設
- 避難時要注意箇所（アンダーパス、地下道など）
- 危機管理型水位計
- 雨量計
- 河川
- 国道
- 鉄道（JR）
- 新幹線
- 行政界

土石流	急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）
 <p>立木の裂ける音や大きな岩の流れる音が聞こえる （大きな岩同士がぶつかる音や立木の折れる音などが、下流まで聞こえることがあります）</p>	 <p>普段澄んでいる湧き水が濁ってくる がけから水が湧き出ている （地盤の内部に新たな水の通り道ができた、または大量の地下水が流れたことで隙間が広がったために見られる現象です）</p>
 <p>急に川の流りが濁り、流木が混ざる （上流で発生した土石流が原因で、川に流入した土砂や倒木が下流へ流れてきたときに見られる現象です）</p>	 <p>がけに亀裂ができる （地表水の浸透や地下水の湧出、樹木の根の伸長等により、割れ目の結合力が弱まっているために見られる現象です）</p>
 <p>雨が降り続けているのに川の水位が下がる （上流で崩れた土砂により川を塞ぐ天然ダムができ、川の水を貯めているために見られる現象です）</p>	 <p>がけから小石がパラパラ落ちてくる （がけ表面の中で結合が弱い箇所から起きる現象です。頻度が多いとがけ崩れの発生の可能性が高まります）</p>

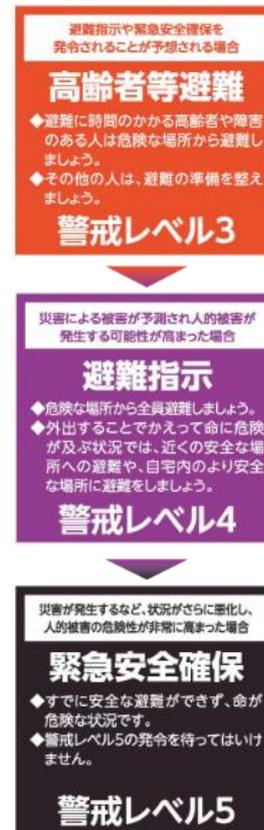
災害時の情報伝達方法

災害情報等の伝達・収集

災害に関する情報は、下図「緑色・オレンジ色」の手段と経路で確認してください。また、町は、気象庁や国土交通省が発表する防災気象情報をふまえ、災害発生の危険が高まった場合、右図に示す3段階の避難指示等を発令します。



町が発令する避難指示等



「放送内容配信アプリ」にて放送内容を確認できます

防災気象情報等の活用

テレビのニュースや情報番組などで発表される警戒レベルは、気象庁の「キキクル」に基づく情報です。パソコン・スマホで閲覧できますので、閲覧した時の警戒レベルに応じた「とるべき行動」に従い行動してください。

キキクルの活用と避難情報の確認

気象庁が提供している「キキクル」は、大雨による洪水や土砂災害発生の危険度の高まりを、地図上で5段階に色分けして示す情報です。常時10分毎に更新しており、氾濫危険情報や土砂災害警戒情報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。

	警戒レベル	皆さんがとるべき行動	避難情報など	気象情報など
高 災害発生の危険度 低	警戒レベル5 命の危険 直ちに安全確保!	すでに災害が発生、または切迫した状況です。 命の危険があるため、ただちに身の安全を確保 しましょう。	緊急安全確保 ※1 (町が発令)	警戒レベル5相当情報 氾濫発生情報 大雨特別警報 など
	<警戒レベル4までに必ず避難>			
	警戒レベル4 危険な場所から 全員避難	速やかに危険な場所から全員避難 しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示 ※2 (町が発令)	警戒レベル4相当情報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報など
	警戒レベル3 危険な場所から 高齢者などは避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児など)とその支援者は危険な場所から避難 しましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 ※3 (町が発令)	警戒レベル3相当情報 氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報 など
	警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認 しましょう。	洪水注意報 大雨注意報 など (気象庁が発表)	警戒レベル相当情報は皆さんが自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。
警戒レベル1	災害への心構えを高め ましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)		

(国土交通省・気象庁・都道府県が発表)

- ※1 警戒レベル5(緊急安全確保)は、町が災害の状況を確認に把握できるものではない等の理由から必ず発令される情報ではありません。
- ※2 警戒レベル4(避難指示)は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されます。
- ※3 警戒レベル3(高齢者等避難)は、高齢者以外の人も、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難を開始するタイミングです。
- ※4 キキクルで表示される色は、避難にかかる時間を考慮して、2時間先までの予測値を用いて危険度を表示しています。

キキクルの
ホームページ→



避難すべき避難所の場所、避難のタイミング、
万一逃げ遅れた場合の対応方法

「指定避難所」「指定緊急避難所」「要配慮者利用施設」等

指定緊急避難場所一覧					
No.	施設名	所在地	電話番号	避難できる災害の種類	
				洪水	土砂災害
①	エコミュージアム関ヶ原	大字玉1565-3	43-1111	○	○
②	小関集落センター	大字関ヶ原1309-1	43-1111	○	○
③	大高転作促進研修施設	大字大高1056-1	43-1111	○	○
④	東町転作促進研修センター	大字関ヶ原3758	43-1111	○	○
⑤	藤下転作促進研修施設	大字藤下317-1	43-1111		○
⑥	門間転作促進研修施設	大字今須123-2	43-1111	○	○
⑦	竹之尻転作促進研修施設	大字今須581-2	43-1111	○	○
⑧	瑞竜転作促進研修施設	大字関ヶ原691-1	43-1111	○	
⑨	山中多目的集会施設	大字山中981-2	43-1111	○	
⑩	旧小林分校	大字今須765	43-1111	○	
⑪	貝戸集落構造改善センター	大字今須1045-1	43-1111	○	

関ヶ原町には13箇所の指定避難所があり、全てが指定緊急避難場所を兼ねています。この中に「洪水または土砂災害に使用できない施設」があることに注意してください。

気象庁が「警戒レベル3」を発表後、町は「高齢者等避難」を発令したら、速やかに指定緊急避難場所を開設します。お手伝いが必要な高齢者及び介助者、こども（保護者同伴）から「指定緊急避難場所へ避難」してください。

浸水想定区域内の要配慮者利用施設では、各施設の管理者に「災害時の避難計画作成が義務付け」られています。関係する方は内容をご確認ください。

指定避難所一覧（指定緊急避難場所を兼ねる）					
No.	施設名	所在地	電話番号	避難できる災害の種類	
				洪水	土砂災害
①	北部集落センター	大字玉249-1	43-1047	○	○
②	旧北保育園	大字玉37-1	43-2612	○	○
③	関ヶ原ふれあいセンター	大字関ヶ原894-29	43-2233	○	○
④	東保育園	大字関ヶ原3608-1	43-2688	○	○
⑤	関ヶ原小学校(体育館)	大字関ヶ原3132-3	43-0027	○	○
⑥	関ヶ原小学校附属幼稚園	大字関ヶ原3132-8	43-1111	○	○
⑦	国保保健福祉総合施設やすらぎ	大字関ヶ原2490-29	43-3201	○	○
⑧	関ヶ原中学校(体育館)	大字関ヶ原2490-101	43-0054	○	○
⑨	西保育園	大字松尾258-1	43-2601	○	○
⑩	今須小中学校(体育館)	大字今須75-1	43-1111	○	○
⑪	今須保育園	大字今須160	43-1111	○	○
⑫	グリーンウッド関ヶ原	大字今須2048	41-0033	○	○
⑬	野上転作促進技術研修施設	大字野上1168-2	43-1111	○	

要配慮者利用施設一覧		
No.	名称	電話番号
①	特別養護老人ホーム優・悠・邑	43-3155
②	グループホームうららびより関ヶ原	43-5780
③	有料老人ホームかわせみ	47-5850
④	関ヶ原生活介護事業所さくらんぼの家	43-1525

「雨量・水位計」「避難経路上の注意を要する箇所」等



関ヶ原町には、危機管理型水位計と雨量計が各2箇所設置されています。危機管理型水位計では、河川護岸の「天端から水面までの距離」が計測され、水位情報がインターネットで公表されています。距離が短くなると、10分毎に情報が更新されます。雨量計の観測値は、「キキクル」の危険度予測などに利用されています。また、豪雨時の通行を避けるべき注意箇所（)が、町内に5箇所あります。

凡例							
	土砂災害特別警戒区域		土砂災害警戒区域				
	指定避難所		指定緊急避難場所		要配慮者利用施設		
	避難時要注意箇所(アンダーパス、地下道など)						
	危機管理型水位計		雨量計		河川		
	国道		鉄道(JR)		新幹線		行政界

非常時の持ち出し品、家族との連絡先、緊急連絡
先などの確認

災害時の行動と安否確認

危険な場所を事前に確認しましょう

ハザードマップで自宅周辺にある危険な場所の確認や、避難場所を確認しましょう。また、避難場所までの安全な避難経路は、状況に応じて対応できるように複数準備しておきましょう。



避難に適した服装を確認しましょう

動きやすく安全な服装を準備しておきましょう。長靴は中に水が入ると重くなり、脱げやすくなるので避けましょう。



食料・飲料水を備蓄しましょう

『非常持出品の例』を参考にしながら、家族が最低でも3日間は過ごせるだけの備蓄をしましょう。カップ麺やレトルト食品は、消費した分を買い足しながら、効率よく備蓄しましょう。持出品はリュックに入れて、すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。



非常持出品を用意しましょう

非常持出品は避難時に持ち出す必要最小限のものを袋などに入れて、玄関などのすぐに取り出せる所に保管しておきましょう。

非常持出品の例 チェックリスト

貴重品・医療用品	非常食・生活用品	防災用品・衣類等
<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 通帳の写し・印鑑 <input type="checkbox"/> 運転免許証の写し <input type="checkbox"/> 健康保険証の写し <input type="checkbox"/> 常備薬の予備 <input type="checkbox"/> 緊急医薬品 <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> 除菌シート <input type="checkbox"/> お薬手帳 <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> 消毒液	<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 乾パンやクラッカー <input type="checkbox"/> レトルト食品、缶詰 <input type="checkbox"/> 固形スープ <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> はし・スプーン <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> 携帯電話の充電器 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 紙オムツ <input type="checkbox"/> 予備のメガネ、補聴器	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 乾電池 <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 上着・下着 <input type="checkbox"/> 靴下 <input type="checkbox"/> 簡易(携帯)トイレ <input type="checkbox"/> ライター <input type="checkbox"/> カイロ <input type="checkbox"/> ペット用品

備蓄品の例 チェックリスト 1週間程度の飲料水や食料などの備蓄品も準備しておきましょう。

食料品等	生活用品・衣類等
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3L) <input type="checkbox"/> アルファ化米(非常食) <input type="checkbox"/> レトルト食品、缶詰 <input type="checkbox"/> 栄養補助食品 <input type="checkbox"/> 調理用水	<input type="checkbox"/> 水タンク <input type="checkbox"/> 生活用水 <input type="checkbox"/> カセットコンロ <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ライター <input type="checkbox"/> 簡易(携帯)トイレ <input type="checkbox"/> 掃除用具 <input type="checkbox"/> 抗菌・消臭剤 <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> 衣類

＜非常持出品の準備＞

災害発生後、数日間はライフラインの障害などにより、普段の生活ができなくなります。想定以上の被災者が発生した場合には、町が備蓄している日用品や食料が不足する可能性もあります。

災害直後の数日間を生活するため、各家庭で最低3日分の非常食や飲料水などを備蓄して頂き、避難する時に持参してください。

＜災害時の連絡方法＞

災害時に、ご家族や知人の安否確認をする場合には、「災害用伝言ダイヤル、災害用伝言版」を活用してください。

災害時の連絡方法

災害用伝言ダイヤル、災害用伝言版は、家族や知人の安否確認に活用できます。ご利用にあたっての事前契約等は一切不要です。

NTT災害用伝言ダイヤル (171)	NTT災害用伝言版 (web171)	携帯電話・スマートフォンの災害用伝言版
固定電話・IP電話・携帯電話・PHSから、伝言を録音・再生できます。録音時間は1伝言あたり30秒です。 【使い方】 「171」をダイヤルして、「録音」または「再生」の操作をしてください。	【URL】 https://www.web171.jp/ 携帯電話・スマートフォン・インターネットから、伝言を文字入力・確認できます。文字数は1伝言あたり100文字以下で、日本語・英語・中国語・韓国語で入力可能です。 【使い方】 「web171」にアクセスして、「入力」または「確認」の操作をしてください。	携帯電話各社(NTTドコモ、au、ソフトバンク、ワイモバイル)の携帯電話・PHSから伝言を「文字入力」できます。伝言の「確認」はインターネットからも可能です。 【使い方】 各携帯端末のトップ画面や専用アプリから「災害用伝言版」にアクセスし、操作をしてください。

■災害用伝言ダイヤルと災害用伝言版(web171)は、それぞれで登録された伝言を音声で相互に確認できます。
 ■災害用伝言ダイヤルと災害用伝言版(web171)は、「毎月1日、15日」「正月三が日(1月1日～1月3日)」「防災週間(8月30日～9月5日)」「防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)」に体験利用できます。